

東京2020オリンピック競技大会の開幕日の祝日化を求める意見書

超党派のスポーツ議員連盟は、東京2020オリンピック競技大会開会式が行われる2020年7月24日を祝日とするため、国民の祝日に関する法律の改正について検討を進めている。その検討の中では、10月の「体育の日」を「スポーツの日」と改称した上で、2020年に限って「スポーツの日」を7月24日に移す案が改正案として有力視されている。

東京2020オリンピック開会式の当日は、首都圏で、各国要人の出席に備えた大規模な交通規制や、世界中から集まる観光客でかなりの混雑が予想されており、開会式当日の祝日化は、こうした混雑の緩和策として、大変有効である。一方、国民挙げての世界的イベントを記念する観点からは、2020年のみ祝日とするのではなく、それ以降の年についても、祝日とすべきである。

1964年の東京五輪の開幕日にちなみ、祝日に制定された「体育の日」には、今なお、国内各地で、スポーツに関するイベントが多数開催されており、「体育の日」は、国民が気軽にスポーツに親しむ日として定着している。このことから、東京2020オリンピック開会式にちなんで制定される祝日が、大会開催後も、スポーツの価値や楽しさの普及・拡大に資する「無形のレガシー」となる期待は高い。

よって、本区議会は、国会及び政府に対し、東京2020オリンピック開会式が行われる2020年7月24日を祝日とするとともに、同祝日を恒常化するよう強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき、意見書を提出する。

平成29年10月25日

江東区議会議長 榎本雄一

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣

} あて